資料５

（別添）

独立行政法人国立病院機構

南岡山医療センター
公的医療機関等2025プラン

平成２９年１２月１８日　策定
平成３１年　２月１９日　一部修正（赤字）

【南岡山医療センターの基本情報】

医療機関名：独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター

開設主体　：独立行政法人国立病院機構

所　在　地：岡山県都窪郡早島町早島４０６６

許可病床数：４００床
（病床の種別）　一般　　３７５床（一般病棟９５床・地域包括ケア６０床・
障害者施設等（重心１２０床・神経筋１００床））
結核　　２５床（結核ユニット）
（病床機能別）
高度急性期　　０床
急性期　　９５床
回復期　　６０床
慢性期　　２２０床

稼働病床数：３８５床（平成２９年９月１日～）
（病床の種別）　一般　　３６０床（一般病棟９０床・地域包括ケア５０床・
障害者施設等（重心１２０床・神経筋１００床））
結核　　２５床（結核ユニット）
（病床機能別）
高度急性期　　０床
急性期　　９０床
回復期　　５０床
慢性期　　２２０床

診療科目：１８診療科
内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、
小児科、小児神経科、外科、呼吸器外科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、

職員数：平成２９年１０月１日現在　　平成３０年１２月１日現在

・　医師	３５名	３３名
・　看護職員	２５０名	２３９名
・　専門職	１４０名	１３９名
・　事務職員	４４名	４６名
計	４６９名	４５７名

【１．現状と課題】

①　構想区域の現状

岡山県南西部地域医療構想区域における、報告病床数（現状及び6年後）、2025年の必要病床数は以下のとおり。6年後の予定病床数と2025年の必要病床数を比較すると、高度急性期と急性期と慢性期が過剰となっており、回復期が不足となっている。今後各病院は、高度急性期・急性期から回復期への転換を求められることが予想される。

岡山県南西部 地域医療構想区域		慢性期	回復期	急性期	高度 急性期	合計
病床数	現状報告数(2016.7.1)	2,260	1,205	3,379	1,758	8,602
	6 年後の予定	2,201	1,383	3,259	1,930	8,773
	2025 年必要病床数	1,866	2,761	2,722	888	8,237
2025 年と 6 年後の予定との差分		△335	1,378	△537	△1,042	△536

※　岡山県ホームページ「病床機能報告」より抜粋

休棟・無回答等を除く

②　構想区域の課題

岡山県南西部地域医療構想区域における、当院と競合関係にある病院の病床機能報告は以下のとおりである。

周囲には高度急性期の川崎医科大学附属病院があり高度急性期・回復期は6年後には再稼働する。倉敷中央病院は高度急性期・急性期とも現状を維持する。圏域内では高度急性期・急性期ともに過剰となるのでこの領域で競合すると厳しい状況になる。慢性期はどの病院も現状維持で今とかわらない競合関係が予想される。

他病院の状況		慢性期	回復期	急性期	高度 急性期	合計
倉敷中央病院	現状(2016.7.1)	0	0	380	832	1212
	6 年後	0	0	380	832	1212
	差分	0	0	0	0	0
川崎医科大学附属病院	現状(2016.7.1)	0	48	0	914	962
	6 年後	0	96	0	1086	1182
	差分	0	48	0	172	220
しげい病院	現状(2016.7.1)	119	94	43	0	256
	6 年後	119	94	43	0	256
	差分	0	0	0	0	0
松田病院	現状(2016.7.1)	38	0	97	0	135
	6 年後	38	0	97	0	135
	差分	0	0	0	0	0

南岡山医療センター	現状(2016.7.1)	220	60	95	0	375
	6 年後	220	60	95	0	375
	差分	0	0	0	0	0

※　岡山県ホームページ「病床機能報告」より抜粋

休棟・無回答等を除く

③　自施設の現状

国立病院機構の理念

わたしたち国立病院機構は

国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のためにたゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

病院の理念

私たちは「ゆるぎない信頼、心からの満足」をしていただける病院を目指します

人としての尊厳を重視した上で、専門医療（国の定める政策医療）に誇りをもち、地域の皆様が安心して 心身ともに癒される医療を受けていただけるよう、全力を尽くします。

基本方針

私たちは、専門知識と技術を磨き安全で質の高い医療を実践します。
患者様の人格と権利を尊重し、皆様の目線に立った安心で優しい医療を提供します。
治り難い病気や障害者の治療と自立を支援する地方専門医療センターの役割を果たします。
臨床研究を推進し、わが国の標準医療づくりや新しい医療の開発に貢献します。
効率的かつ効果的な運営を追求し、健全な経営基盤を築きます。
時代の流れや皆様の意見を受け止め、柔軟な対応に努めます。

診療実績

届出入院基本料	一般病棟	１０：１	地域包括ケア	１０：１
	障害者施設	１０：１	結核病棟	１０：１

平均在院日数（平成30年度は、11月まで）

平成２８年度　53.7日　平成２９年度　55.9日　平成３０年度　56.9日

病床稼働率（平成30年度は、11月まで）

平成２８年度　82.3%　平成２９年度　86.1%　平成３０年度　83.1日

自施設の特徴

慢性期（重度心身障害（児）者、神経・筋難病等）を主に、急性期（主に、呼吸器疾患（結核））・回復期（地域包括ケア病棟）も行っている。

岡山県結核拠点病院としての指定を受け、結核医療相談・技術支援センター（当院と岡山県健康づくり財団附属病院）については他県からも参考にしたいとの申し出もあるので、今後も引き続きお願いしたいと言われている。（H29.8.9岡山県保健福祉部医療推進課）

岡山県アレルギー疾患医療拠点病院に指定（H30.9.1）される。

自施設の現状

呼吸器疾患等を中心とした当院の専門性を生かした医療を行う。重度心身障害（児）者、神経・筋難病等、政策医療を中心とした専門性の高い医療を提供し、地域に貢献していく。

例えば、重症心身障害（児）者の短期入所の受入拡大。在宅医療を望む難病患者が増加しているため、介護者の負担軽減を図り在宅における安定的な療養生活の継続のためレスパイト入院の必要性により岡山県の神経・筋難病レスパイト事業の協力病院としての役割を充実させる。

結核医療については、岡山県結核拠点病院としての指定を受け、平成25年度から全国でも例を見ない結核医療相談・技術支援センターの設置や拠点病院としての研修の実施など中心的な役割を果たしている。

岡山県アレルギー疾患医療拠点病院に岡山大学病院とともに指定(H30.9.1)され、治療だけではなく研修の実施など啓発活動に取り組んでいる。

④　自施設の課題

病床稼働率向上のために、今後は更に地域医療との連携により開かれた病院を目指すべく地元医師会との胸部疾患懇話会及び地域医療連携懇親会等を継続開催し、開業医等との情報交換、意見交換等を行い、紹介患者数の増加による新入院患者の増加に向けて取り組んでいく。また、引き続き、大学病院を中心とした大型医療機関へも紹介患者の依頼をすべく実施していく。

また、地域住民の認知度を向上（若い世代(特に転入者：早島町は2025年に人口増が県内で唯一推計されている。)は早島の王山の上に病院があることを知らない。高齢者世代は、昔の結核療養所という認識が強く残っている。）させるため、地域のイベントへの参加・公民館(サロン)での講演会などを行っていく。

職員確保については、医師は退職後及び必要とする科の確保及び看護師確保に努めていく。

【２．今後の方針】　※　１．①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

①　地域において今後担うべき役割

重症心身障害(児)者に対する医療については、県南西部医療圏のみならず県内から広く患者を受け入れており、ポストPICUへの対応を充実しつつ、慢性期機能を維持する。

また、短期入所・通園事業の実施を行っている。

神経筋難病患者に対する医療については、県南西部医療圏のみならず県内から広く患者を受け入れており、拠点病院として早期診断から長期療養に係る医療を提供する慢性期機能を維持する。岡山県のレスパイト事業の受入などを行っている。

エイズ医療の提供体制における岡山県の拠点病院としての役割を担っており、HIV患者に対する包括的な医療を提供するために不可欠な急性期など機能を維持する。

呼吸器疾患に対する医療については、呼吸器疾患・肺がん等は県南西部医療圏から患者を受け入れており、結核については病棟の更新築にあたり、結核病床50床を25床のユニットとして平成25年7月より運用しており、県南西部医療圏のみならず県内から広く患者を受け入れており、県の中核施設となっている。

○岡山大学病院との医療連携：岡山大学病院で行われている移植医療、特に肺移植の後方支援(術後１ヶ月程度からの術後管理とリハビリテーションを行い、移植外科医の負担軽減を行う。)。

○岡山県アレルギー疾患医療拠点病院に平成３０年９月１日指定され、今後は拠点病院としての体制を整備(患者・家族向けの講習会、学校の教職員向けの対処方法指導、病院全職員対象のアナフィラキシーへの対応研修会など)し、岡山県・岡山大学病院とも調整を行っていく。

②　今後持つべき病床機能

回復期５０床(地域包括ケア病棟)については、一旦、休棟(４３床)とする。

急性期病床については、地域のニーズを踏まえ４階病棟３３床を回復期(障害7:1であるが、呼吸器・軽中等度の神経筋疾患患者・整形外科などの在宅復帰が可能な患者の受け皿として考えている。)として運用する。

慢性期(重症心身障害(児)者１２０床・神経筋１００床)について、重症心身障害(児)者病棟は県内では当院の他には、県南東部医療圏にある旭川児童院（３６９床）しかないため必要である。

神経筋疾患患者病棟については、近年軽症の患者を受け入れる病院は増えているが、重症の患者の受入は当院の責務と考えているため、神経筋を１００床（５０床×２個病棟）から１１７床（６０床＋５７床）での運用を開始する。また、将来的には地域包括ケア病棟(43床)の再開を検討する。

結核病床２５床(ユニット)については、今後も岡山県の中核施設として維持していく。

結核医療相談・技術支援センター(南岡山医療センターと岡山県健康づくり財団附属病院)については岡山県より引き続きの運営を依頼されている。(H29.8.9)

③　その他見直すべき点

医療機関全体として、病床稼働率が低下傾向であり、今後の医療需要の推移を加味して、最適な病床規模・機能について検討する。

【３．具体的な計画】　※　２．①～③を踏まえた具体的な計画について記載

①　４機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 （平成28年度病床機能報告）		将来 （2025年度）
高度急性期	－	→	－
急性期	９５床		５７床
回復期	６０床		７６床(33+43)
慢性期	２２０床		２３７床
（合計）	３７５床 （別：結核ﾕﾆｯﾄ　　２５床）		３７０床 （別：結核ﾕﾆｯﾄ　　２５床）

・4階病棟33床を地域のニーズを踏まえて、一般病床ではあるが、回復期（亜急性期患者を収容する）として運用する。休棟の地域包括ケア病棟43床の再開を検討する。

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	（参考） 関連施策等
2017年度			2年間程度で集中的な検討を促進
2018年度	２階東病棟（神経難病病棟）の患者を、１階病棟へ移転する準備を行う。（患者説明など）		第７期介護保険事業計画
2019～2020年度	１階病棟を、神経難病病棟（60床）へ変更し、２階西病棟（57床）と117床の運用を開始する。２階東病棟を43床の地域包括ケア病棟として休棟とする。	神経難病病棟（１階病棟・２階西病棟）の病床利用率を８５％以上とする。	第７次医療計画
2021～2023年度		神経難病病棟117床（１階病棟（60床）・２階西病棟（57床））の病床利用率９０％以上を目指す。 2025年度に向けて、４階病棟33床を軽中等度の神経難病患者等を収容する病棟への変更を目指す。	第８期介護保険事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在（本プラン策定時点）		将来 （2025年度）
維持		→	
新設		→	
廃止	外科・呼吸器外科（常勤） 血液内科（常勤）	→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

・ 病床稼働率 ：平成28年度 82.3% 平成29年度 86.5%
・ 手術室稼働率：平成28年度 101件 平成29年度 91件
・ 紹 介 率：平成28年度 52.9% 平成29年度 54.9%
・ 逆 紹 介 率 ：平成28年度 46.9% 平成29年度 48.5%

※ 2025年度に向けては、2017（平成29）年度の数値を最低限として維持を目指す。

経営に関する項目*

・ 人件費率 ：平成28年度 65.4% 平成29年度 64.0%
・ 医業収益に占める人材育成にかける費用（職員研修費等）の割合：
平成28年度 0.039% 平成29年度 0.030%
「本部で負担している研究研修費は含まない」

・岡山県地域医療介護総合確保基金事業補助金（新人看護職員研修事業補助金）の交付を毎年受けている。

その他：

【４．その他】

（自由記載）